

日時 令和7年2月25日(火)10:00~12:00

場所 中井町農村環境改善センター 2階研修室

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

(1)地区別アンケート分析結果について

4. 協議事項

(1)第七次中井町総合計画基本構想案について

(2)第七次中井町総合計画前期基本計画骨子案について

5. その他

今後のスケジュールについて

(質疑)

3.報告事項

(1)地区別アンケート分析結果について

委員	前回この地域別で進めた方がいいのではないかというふうに思って、出していただいたと思うのですが、次の資料に反映されているというものかというように考えていいのでしょうか。
事務局	はい、基本的な総合計画につきましては、まち全体を見ている施策になっていますので、特に地区別というような概念で構成をしていない形です。ただ当然こういった地区別の結果が出ていますので、仮に交通だったり生活であったり、中井町の中において、少し町民の皆さん感じていることに差が出て、当然そこはそこを踏ま政策立案していくといった流れになっていますので、そこは特別、個別の地区でこうしますっていうことではなく、町全体で考える計画になります。当然この結果を考慮した中で計画の策定をしていくということでご理解いただきたいです。
会長	他にどうでしょうか？
委員	境地区の住宅ですとか、また入ってこられる若い人もかなり少ないようなのですが、市街化調整区域だからでしょうか。
事務局	はい、おっしゃられますように基本的には調整区域というのは新しく人が住んだりすることができない、開発を抑制する区域となっておりますので、今あるところに入っていくということしかできません。新規の住宅開発などは難しいという部分で、井ノ口地区ですとか中村下地区になりますと、市街化区域といって、都市化を促進する区域ということになります。新たな住宅建設等が可能となっておりますので、そういった関係で人口は調整区域では基本的には伸びない、開発を抑制する区域だということでご理解いただければと思います。
委員	都市化を進めるにあたって、中井町と大井町の都市計画を進めていると聞いているのですが、

	大井町が非常に発展しているように見えます。中井町はちょっとそれに比べると…、という形になっていますけど。大井町と近所ということで割を食うということになっているのではないのでしょうか。
事務局	まちづくりにつきましては、広域連携という形で近隣の町と連絡調整をさせていただいているところでございます。大きなエリアで考えまして、例えばお互いに不足している部分を補うというような形などもとらせていただいて、狭い、単体の市町村ごとではなく、大きなエリアで魅力を高めていこうということで、いろいろな施策を推進して人口増加等に誘引するような取組を進めているところでございます。その中でもやっぱりおっしゃられますように近隣の行政会議で、近隣とのいろいろな面で比較されてしまうということがあるのですけれども、もう少し大きな面で捉えて行政を回させていただいているところでご理解いただければと思います。
会長	他にどうでしょうか？ 私から質問させてもらいたいのですが、井ノ口地区が高くて境地区が低いのですが、その原因は何でしょうか？
事務局	生活という部分で、井ノ口地区は高いというのは、井ノ口地区に招致できました商業施設ができた部分も大きく影響しているというところですね。また、グラフの中では公園というような部分になりますと、逆に境地区が一番高い満足度になっています。こちらは中央公園とかが近いなど、そういったものが影響しているものかと思われます。そういった地域性によってだったり、井ノ口地区はバス路線が比較的多かったり、そういったところも生活のしやすさといった部分で、中村地区よりも多少高いというのが出ていると認識しています。
会長	はい、わかりました。ありがとうございます。他にどうでしょうか？
委員	今の広いエリアで考えて、全体として計画を立てていくということは理解しているつもりではあるのですが、今後のこのウェルビーイング指標を町として深めていきたいと思います時に、今回はこの地域別も見てみたいですねというレポートを出していただいたのですが、今後のウェルビーイング指標は町全体ですと見ていくのであれば、結局中村地区は取り残されているっていったらいい方があれですけど、良くない部分はそのままだけど、いいところが伸びて全体として平均が上がればよしとするのか、どういう感じで進めていくのでしょうか
事務局	当然、町としましては全ての地区の方の幸福度が上がることが理想です。先ほど言ったように総合計画は全体を示す形になります。当課ですと、これ以外に公共交通等の事業の所管をしております。公共交通で例えますと井ノ口地区と中村地区の状況が違うといったところを加味しながら、中村地区の方でも利用しやすいような交通形態を考ながら、事業を実施させていただいています。当然全体的なところが底上げされるのが理想だということなので、事業としては取り組ませていただいていますので、ご理解いただければと思います。
会長	よろしいですか？
委員	個人的に思うのですが、中村地区と井ノ口地区でくらべると、井ノ口はいろいろ生活のしやすさの満足度が高いということで、井ノ口地区のほうが多く住んでおられて、新しい人は町外からこられて、

	私のところは真ん中のところに住んでいますけど、いろいろ新しい人が積極的にいろんなことで動いてくれています。その中でも幸福度はあるのかな？という部分は感じるのと、あとあの井ノ口で、まち全体の中に多分はつきりしていると思うのですが、違いの空気があります。それでまちが、30 年も 40 年も手を付けていないところ、あの何を言っているかということ、市街化調整区域が埋まってくれば、他のところに波及してくるのですよね。よくわかんないですけど、中村までが増えるとか、そういう現象も起きるのではないかと思うのですけど。 だからそういう中では、開発できるところから積極的にやられたほうがいいのかと思っています。
委員	井ノ口と中村だとかなり生活環境が違って、中村の中でも地域によってかなり違ってくると思うので、それぞれのその地域ごとにあったウェルビーイングというか、田舎暮らしが好きで中村地区にいる人、私は岩倉っていう地域に住んでいるのですが、割と山の中でそれが好きで住んでいる人がもちろんいるので、そこが全部同じような町になればいいわけではないと思っています。
会長	他にどうでしょうか。
委員	地区別の年代の回答者数は人口構成とほぼ合致しているということでよろしいですか？
事務局	合致しております。

4. 協議事項

(1)第七次中井町総合計画基本構想案について

委員	5ページの時代潮流の変化、GX、インクルージョンなどよくまとまった内容になっていると思いました。将来像ですが、基本的な部分として、手順として、町民に対して、例えば何かアンケートを取っているのかとか。あと、一応この中井町をよく知っている中井町の役場の職員にはかって、そこで確認しているのかとか。その基準がここであったことがいきなりその時代に持てかれるという、ちょっと解釈もありましたね。そういった手順でそこまで行くのかな？ということで、少々教えていただきたいと思います。
事務局	ご説明不足で申し訳ございません。今回ですね、基本的には今、総合計画を策定するにあたりまして、本会であります総合計画審議会というのをまず設けさせていただきます。これは町長に対する諮問機関という形での設置になります。それとは別にですね、中井町の総合計画の策定委員会というものをまず一つ設けています。これは、役場の管理職と町長を含めた特別職からなる会議が策定委員会という形になります。その下に、中井町総合計画策定管理会というものがございまして、各課の班長級で構成された会議がございます。順番に幹事会で議論いただいて修正したものを策定委員会で修正して審議会の方でご議論いただく、その繰り返しということですね。そのサイクルで、基本的には完成させているといった形で進めているということです。
会長	町民の意向というの也有りますよね。
事務局	そうですね。町民につきましては、来年度計画を固める前に、計画案として最終的な案を作った段階で、町民の皆様にはパブリックコメントということで、ご意見をいただく場を設けてございます。後ほど今後のスケジュール等、ご説明をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

会長	他にどうでしょうか？
委員	ご質問なのですが、まず総合計画というもので、今お話を聞いた中ではこんな問題があります、こんな問題があります、というようなところがたくさん出てきていて、具体的に、それに対してこういう対策をしていこうと思います。この十年間、具体的にそれに対してはこういうことを考えていますという道筋はないと思うのですが、そういうものなのか、それで終わってしまうものなのかなってというのが聞きたいです。
事務局	今回ですね。お示しいていましては基本構想という形になります。来年度取り組むものが前期の計画というものです。また策定をします。そこでもう少し細かい内容の分野です。ただし、あの総合計画になりますので、全て細かい部分ですね、全部記載できるかという、決してそんなことはなくてですね。当然、これらの課題に対応すべく、今回六つの方向性を示していますので、また、後ほど業務計画の骨子案というところでご説明はさせていただきますけれども、この六つの方向性の下にいろいろな分野を位置づけて、その下にいろいろな施策事業等を盛り込んでいくといった形が、まあ全体的な形となります。ですので、これより細かいものについては前期の基本計画のほうである程度お示しをするといった形で計画としては作っていきます。
委員	これ自体に詳しく計画を載せていくとかいうものではないですよということですね。もう一つ、一から六までであったりする中で、そもそも人口が減るものだっていう 2050 年には 5,500 人になるでしょ？みたいな感じからのスタート。そこに対して対策はしていけないっていうところ、そこを盛り込まないのかなっていうのをちょっと思いました。
事務局	はい、今回ですね、前回の第六次計画については基本構想内に目標事業というのを入れておりました。ただですね、今回第七次計画につきましては、町民のウェルビーイング向上というのを町の方向性として示しています。ですので、人口が増える＝町民の幸福度が上がるっていう説明がなかなかこの基本構想内では難しいということもあって、当然、目標人口的なものについては、前期基本計画の中では定める予定ではあります。この後予定しています人口ビジョンというのを作成しますので、こちらに出ています社人研が出している推計人口に対して町が仮に 6,000 人にしたいですというある程度目標を示したら、その人口に対してどういう施策をやっていきますか？といったものを、ある程度シミュレーションして目標の設定はさせていただいていますけれども、今回構想については幸福人口増＝今住んでいる方の幸福実現ではなかなか文章がまとまらないといったところも含めて、将来人口の目標値を構想案にいれてないといった作りになります。
委員	私が思うにはやっぱり人口が減っていくという不安もあるし、将来の五年後に対して幸福度が下がっているっていうのは不安を感じているからなのではないかなと。で、その対策が盛り込まれていますよ、それもなんか人口が増えるとやっぱり活気がなんかあるところだなんていうふうに認識するんですけど、それもウェルビーイングにつながると思うんですけど、文中に入れていった方がいいのではないかなと思います。それと同時進行の感じがします。
委員	今ご説明の通りで、私たちもこれはさっきの 5,995 人というのは、あの社人研という団体が作った推計ですので、これまで落とすじゃなくて、もう少し下がり方を緩やかにしていこうというのはまちの基本的な考えです。ただ、もう人口自体はなかなかもう簡単に増えません。今、中井町の状況だと社会増、

	要するに他から来たり出たりする割合的には若干今は入っている方が多い。ただ、どうしても自然増というとお年寄りがなくなっちゃって、若い人はそこまで生まれてきてないので、どうしてもそこが毎年百人近く減っていくみたいな状態になってしまいます。ですから、そういったところもちろんしっかりやっぱり見ていかなきゃいけないし、それでこれ今後これから先ほど言ったように前期の基本計画の中でいろんな事業をこれから町も、今もやっていますけど、その中で人口を動き出すためには、一つの政策だけで人口が増えるわけではないし、減らなくなるようになるわけではないので、その中でいろんな事業をやった中で、そういう人口に対してもしっかり手当てをしていくというか、しっかり対策も含めた中で進んでいくっていうのが、これから、また計画の中でしっかりと、各種分野で個別の細かいところまでは全部あの羅列できませんけれど、方向性はその辺でしっかり打ち出した中で、それでまた今度予算の中で毎年しっかり上げていくっていうスタイルなので、こういうのはあの個々にそののっていうところまでなかなかちょっとしめすのは難しいのですが、ただ、全体の事業の中でそういったものもしっかり対応していくっていうのが基本的な考えです。また今後基本計画のほうも出てきますので、議論していただければと思います。
会長	人口ビジョンはここで議論するのですでしたっけ？
事務局	まだ、これからになります。
会長	人口に関わる話は、これからやっていくことになりますので、そこで議論をお願いします。 はい。では次をお願いします。
委員	今の話の流れでなんですけど、触れられてないことへの不安ということだと思うので、項目も別に六個あるものに対して七個目を足してほしいとかそういうことではなく、例えばまちづくりの方向性って書いてあるので、(1)から(6)の手前のその文章に少しでもいいので、こういったこの先の下(1)から(6)に取り組んでいくことが町の魅力だったり活気だったりっていうのにつながって、人が集まる雰囲気につながっていくということも、ちゃんと考えていますよっていうことは少しでもいいので、触れられていることで、なんか幸せ、幸せってそこばかりではないよっていうことを示してもらえたら読む方の安心感に少しつながるのではないかなと思います。
会長	9 ページのところですか？
委員	13 ページの(1)から(6)の前の文章のところに、こういったことを少し触れていただけると印象が違うかな。
会長	いれていただいたらと思います。これだけやるのではなくて、いろいろやるのだけでも、ここをメインでやっていくということですね。
委員	なんとなくこう聞いただけだと、減る方向で今進んでいるんだみたいな風な感じに、単純に受け取っちゃうから、それはもちろん、仕方なく減る部分もあるけど、ちゃんと対策するうえで、これも大事にして進んでいますっていう風にしてもらいたいです。

会長	各行政施策ありますよね。それを一覧でもらえるといいかなと思います。なので、いろいろ詰まっ いてやっているのが分かる気がしますので。
委員	11 ページのところで第三次の総合計画との関係というふうに書いてあるのですが、ここを読んで 下の図を見ても、この第7次の総合計画がちょっと勉強不足であれなんですけど、第三の総合戦略、こ れの関係性がここを見てもピンとこない。他のものを見ればわかるのかなと思ったのですが。何のこ とやらと思ってしまったので、いろんな計画とかがあって全部関係性があるのだと思うのですがわか らないので、パッと見ると分かる何かがあるといいなと思いました。
事務局	基本的に総合戦略につきましては、今回の総合計画と一体的に作ってしまうので溶け込んじゃう感 じになるのですね。本来は別々に作ってもいいのですが、まちづくりの方向性として、総合戦略で 目指すものと、総合計画で目指すものが変わらないので、一体的に策定をしちゃいますという関係な ので、このグラフですと第三次中井町総合戦略包含というのを書き方しています。下全体がそうとも呼 び替えられるっていうような形になってしまっているんですね。でもイメージの多分わかりやすさ、多分違 う計画とかが別々にあるのかな？ということですかね。
委員	その今言っていた内容がわかりやすく、文章になっていたらわかるのですが、こうやっても 含まれるというと、この中のどっかに入っているのかな、全部がそうなのかとか、わからない。
事務局	一冊の中に別の計画が入っているみたいな、そういうイメージなのか、全体が一緒なのかがちょっと わかりにくいという感じですか
委員	関係性と書いてあるが、関係がわからない。
事務局	あの表記の方を、工夫させていただいてですね。そういった形で別々のものがもう立ててあるとい うよりも全体感を含んだものということがもう少しわかりやすいような、あの表記の工夫をさせていた だきたいと思います。
会長	はい、どうでしょうか？
委員	12 ページに記載してあるところなのですが、里山に象徴される自然というふうに書いてあるので すけども現在中井町に里山と呼べる地区があるのか、もしなければ、これをどのような形で整理してい くのかちょっと教えていただければと思います。
事務局	この里都まちの説明文については、今、町で公に使っているような説明の文章をそのまま掲載してい ます。この里都まちという言葉は町として商標登録を持っているので、いつもこのような形で使わせて いただいております。里山の保全というのは、第六次総合計画に入ってはございます。ただ、町での 説明は中井町の山林を含めてですね、その辺の生活が里山だというようなことで、個別にここが里山と いうわけではないです。ただし、森林の保全だったりとか、その里山の保全、生活環境の保全と言われ るものは、一応事業としては、竹林の管理だったりとか、当然、農政もその里山の部分に入っております ので、一応その事業は行っているという形での記載です。

事務局	やはりあの川沿いにあの住家があって、その住家の広がりの方に山があります。昔ですと、まきを取ったりとか、そういうような形のイメージがおそらく里山というイメージだと思ですけども、現在は薪などというのは燃料の関係で変わってきておりますけど、その中でいろいろ畑を作られていたりですね、少し植林なんかされている方も若干いられます。人工林が入っているところもございます。そんなところでですね、里山としては相変わらず、生活のそばに山があって、そこはですね、豊かな自然環境の象徴だということで捉えて、里山という言葉を使わせていただいているところでございます。生活様式変化しておりますので、以前ちょっと里山というイメージからは少し変わっているのかもしれませんがけれども、住宅地のそばに、そういう山のところに、豊かな自然があるので、今営みが、昔よりはちょっと少なくなっておりますけれども、行われておりまして、森林の保全のために伐採するという事業をやっております。畑に害が及ばないようにという事業の方も、今後検討しているところでございます。そういったものを残していくという考えを持った里都まちなかいという言葉の作りという形でご理解いただければと思います。
委員	この里都まちというのは造語で里と都というまちという場所ですけど、これは今の第六次の総合計画の中で初めて使ったという言葉です。この里山というのを情報化しますと、その里山自体のこれまでの意味になってしまですけど、そこはそこでももちろんあるのですが、その時の考え方としては、中井町は小高い山や田畑などがありながら、自然と小規模な集落で形成された、それを里というようなところで表記して、あと自立した自治体を支える産業、例えばグリーンテックなかいとか、そういったものが集積した町、そこをまちということで、程よく調和している町と、そういうイメージとして里町という言葉を作りましたので、これは今のまちにも引き続き、まだしっかり合っているということで考えています。引き続きこの言葉は第七次でも使わせていただきたいということで、この言葉を引き続き総合計画の中で使わせていただくということです。個別のその里山だけを取ってしまうと、どうしても家から山の間の里山みたいなイメージですけど、もっと広い意味で使わせていただいておりますので、ご理解いただければというふうには思います。
会長	他にどうでしょうか？
委員	先ほどの説明もあったのですが、前回六つの将来像について書いていたと思いますが、今回この辺が三つになったと。それで最後、例えば町民が幸福を実感できるまちなかいというフレーズになっていきますが。個人的な思いを言うと3番目がいいのですが、後で理由は言いますが。六つが三つになった理由というのがもしあれば教えていただきたいです。
事務局	前回、六つをお示しさせていただきました。その後、策定委員会等含めて検討させていただいた結果、①②については、町長の想いが強いということで、このような言葉を入れています。よく生きるという言葉を活用したといったところでございます。③については、先ほど説明した通り、前回の審議会での意見を入れさせていただいています。町内会議等を踏まえてこちらの3案に変更させていただきました。
会長	これはまだ決めなくていいですか？決めないともずいですか？
事務局	できれば将来の方向性になりますので、できればこの将来像は固めておきたいです。

委員	基本構想の方向性とか町民の意識調査から考えられたものかなと。基本的なベースがあるのと、ウェルビーイングを最大限に協調したので、それらを含めて一案になったということなのですが、この方向でやっぱり概ね良いという感じは認めつつですね、こんな考え方もしてはどうかなんて発言させていただきたいのですが。例えば、フレーズの中にみんなでこんなまちを作っていこうとかですね、どうしようとか、その意思や意欲や思いが要素として込められているフレーズはどうなのかなと。それは参考までなのですが、意味付けとしては中井町のエデュケーションが今ちょうど会議で話し合っ、先週も話し合いました。その中で小学校六年生と中学三年生、小学校六年生の63名、中学生が86名のアンケート結果を取りました。そのフォームの中に周りの人を手伝うなどしても役に立つことをしているというのが児童の80%以上を超えているとのこと。もうひとつ、地域の人などに親しみの気持ちを持っていると答えた回答が、小学校六年生85%、中学三年生は75%、どちらも80%程度といったときに先ほど言いました将来像の中で次世代を担う云々という文言があったかと思いますが。そうしますと、やはり小学生、中学生、高校生にもわかりやすく、なおかつ心がゆさぶられるような、そういったものも含めて視点の中に入れて将来像を考えていくといいのではないかと思います。そうしたときに、小中学生が見たときに、小学校中学生に、今のありますよね、一人一人が主役、魅力育む里都まち中井、これを言えた子がほとんど出てこない。なぜかという自分のものとして入っていない状況があるのではないかな？そうした時に実態に合わせてこれから中井を担うという次世代に対してこちらのアピールをするならば、アピールする側の責任として、やはりそういったことを、実態を踏まえたフレーズの中に組み入れていくことが大切なので、そういった観点で議論いただければと思っております。
会長	三つあるテーマなので全部一緒にしてしまえばどうでしょうか。例えば町民が幸福を実感できる町の幸福の上にウェルビーイングと書いていただいて、そうするとウェルビーイングをちゃんと使いましたよね。副題で町民を実感するまち、里都まちの中井とか。あるいはよく生きる里都まち中井とか。全部入れちゃえばいいんじゃないかなって思うんですけど。
委員	「よく生きる」って、何をするのかよくわからないんですけど。
会長	よく民間だとかこういうフレーズがある場合、意味が書いているんですね。それを一つまとめて、じゃあ民間の場合だと、フレーズがあって意味があって、さらにロゴマークがあって、それに沿ってあの民間のあのいわゆるキャッチコピーになってくるんですけども、そんなパターンでもいいんじゃないかなって気がしますけども。なので、三つを合わせていただいて、よく生きるは、人によって違ったりするんですけども。一ページそのまま使うっていうのもあるかなという感じがしますけども。
委員	このキャッチコピーは何かにするのですか。
事務局	ことあるごとに使うと思います。
委員	ことあるごとに使うのであれば、こういうのがいいだろうとか、何に使うかによってこういう方がいいんじゃないかって変わってくるのではないかと思います。
会長	町長さんが何か言うときには必ず使いますよね
事務局	まちづくりの方向性、将来像になるので、使われるといっても日常的に使っているわけではなく、

委員	基本的にこの計画の文面だけだよというのだったら、こんなに悩ましくならなくてはいいいのかなと思います。
事務局	あとは当然、まちが発行するようなもの、使い方的には、町の将来像のこれを目指すためにとかなどの枕言葉で使われます。他計画でも中井町は、今だったら、一人一人が育む里都まちなかいを目指して、こういうのに取り組んでいます。というのが説明的な使い方が多いですね。
委員	今で言うと、その一人一人がというのが、これに当たるものですか。
事務局	そうです。
委員	他の委員さんもおっしゃっていますが、ウェルビーイングを直訳するってよく生きるなんですけど、やっぱりピンとこないっていうか、想像ワクワクしたい言葉に何か置き換えられたら、直訳がよく生きるなんだろうけど、やっぱり今言われたようになんかで使うのであれば、やっぱりなんかワクワクが伝わる言葉になったらいいなあっていうのは、おっしゃっていたように、そのロゴも入れてとか、そのなんだろう。これをせっかくこれだけ議論して、目指す将来像っていうのがやっぱり方向性っていうのはすごく大切だと思っていて、それも、これ見たら、こんな風に目指しているのねとか、こんな風になったらいいな一という希望とか期待とか、期待値を高められるような言葉にここが変わると、ちょっとよく生きるは私もピンとこなくて、この言葉にあまり固執することはないかもしれませんが、少しでもやっぱりその今までこれからパブリックコメント入れ込んだりとか、そういう皆さんの意見をいれるのであれば、やっぱりここが本当にこれですって言えるようなものだったらすごくいいなっていうのは思っています
会長	良く生きるは町長さんが気にしているのでしたっけ？ であればやっぱりいますか？
委員	これは何年かに一回変わるんですかね？
委員	基本構想というのは十年になります。将来像も十年間は基本的にこのスタイル。この十年間の目指す将来像を今回は特に幸福度、ウェルビーイングを入れたので、それを端的にやって、この十年間、こういうものを目指すんだっていうのを要約したのが、将来像ですので、いろいろなご意見いただきましたので、町としても構想が決まっていけないと、なんていうか、目指す方向が決まらないうと、次はそれを受けて今度計画っていう形になりますので、ここで今日は決まらないと思いますけど、次回ぐらいのところでもしっかりこう決めちゃわないと、それに今度はぶら下がる計画を作りますから、今のご意見をいただいた中で整理させていただいて、町長の考えもありますし、それも含めて、今の皆さんからいただいた、わかりやすさも決していないわけではないと思いますので、そこはちょっと調整をして、あのお示しできるようにしないといけないかなという風に思います。なるだけちょっと早めに決めたい。この基本構想があって、それを元に今度いろんな計画を作ることですから、もちろん最終的にはあのパブリックコメントとかそういうものをやった中で、議会の承認も得てできるものですけど、ある程度この審議会の中で、この方向性というのはある程度皆さんのなんですかね、最終決定ではないかもしれませんが、審議会としては、一応こういう方法でいいということはある程度ご了解いただければありがたいかなという風に思います。

委員	思うのですが、皆さんもう何をしたらいいかということを生懸命おもって、多分来ておられると思うので、その中でこの基本構想っていうのを将来の十年間を見据えた、いろいろ文言を作っておられるから、ちょっとマッチングしないというか、基本計画みたいところで議論されれば細かいこといっぱい入ってくる、皆さんにもいろいろ出してもらったらもっといろいろいいのができるのかな？みたいに感じています。
会長	とりあえず次回くらいには、決めていきたいなと思います。十年間使っていきますので、町長さんがね、やっぱりウェルビーイングとかよく生きるとかを気に入っていますので、気に入りますよね。入れておけばよかったなどと思うと思いますので。
委員	ここに入らなくても言うことはできるわけですね。
会長	三つまとめてもいいかなと個人的には思いますけどね。次回以降また考えてもらえればなと思います。本当にさっきの言う町民が幸福を実感できる町、中井、幸福の上にウェルビーイング、それで里都まちで良く生きると。全て入ってきますので、それがあった上で、そのイメージを下に書いてあってもらって、そのようにしたらいいかなってと思っていますけど。議論ができればなと思います。次回くらいで決められたらと思います。ちょっと私から一件、6ページのところで(6)なのですが、最近だとか、協働ともに共創も入ってきていて、自治体のいろいろなところで相当使っています。イメージ的には、住民参加と協働、どちらかというと、住民さんとの想定みたいな感じであって、共創だと民間企業との連携みたいになったりしますので。住民参加・協働・共創とかではどうかと思いました。共創ですけど、Co-Creation と言われていますけどね。最近行政が使っていますね。最近はどんどん出ていますので、これから十年間と考えると相当広まってきますので、あってもいいかなと思いました。あと9ページ。これはちょっと議論したいと思うのですが、EBPM があります、これ正式名称は下にありますが、エビデンスなのですけども、あの中井町のこの構想においてはエビデンスにプラスしてエンパシーも使っているのではないかなと思っています。エンパシーベースドポリシーメイキングと。 これエンパシーは共感という意味があります。今回この基本構想の肝はウェルビーイングですから、町民にとって共感いただけるような基本構想にしなければ、ウェルビーイングがあがっていきませんからね。いわゆるマーケットインサイトです。消費者視点での需要展開なのですけども、行政が事業を作っても賛同を得られなければ意味がありませんので、この町民の賛同を受けたような、事業展開が必要かなと思っています。どの団体もちょっと使っていないのですけれども、中井町においてはウェルビーイングがメインですから、このEBPMに加えてエンパシーですね。町民の方が共感するような事業を作っていくということも言ってもいいのではないかなと思いました。これについてご議論いただきたいなと思いますけども、どうでしょうか。
委員	その言われていることは、そうかなという風に思いましたが、どういうふうな形で入れておきましょうか。
会長	エビデンスが通常なのですけども、中井町の場合はエンパシーも考えています、くらいでいいかなって話ですけども。新しいことをやったほうが、いろいろと広がりがありますので。他の委員の方はいかがでしょうか？今の議論についてでもいいですし、他のことに関するご意見でも構いませんので。

委員	基本計画なのでそういったことがベースになってくるかと思ですけど、中井町らしきみたいなのところはどこで落とし込んでいくイメージになりますでしょうか。
事務局	今回については基本構想になりますので、基本的な本当に方向性だけという形になります。“らしき”ということを出すのであれば、多少作文でということにはなると思うのですが、基本計画内では当然そういった表記とかですね、そういったところがわかるように記載をさせていただければと思います。
会長	“らしき”についてはなかなか難しいので、中井町ならではのものをいれようかなと思ってまして。それはこのウェルビーイングであって、かつエンパシーでいいかなと私は思っています。なので、ならではを考えた時には、ウェルビーイングとエンパシーベースド、町民の共感を持った事業を作っていくという、そんな位置づけが必要かなと思っています。
委員	アンケートだと現状幸福度が高いのに、将来に対して不安になっているところかと思うので、アンケートを取得して、やっぱりその将来に対して安心を求められる、エンパシーでもいいですし、そういった形でできればと思っています。
会長	特に議論としてダメでなかったら一回入れていただいてで、ちょっとおかしいと思ったら直せばと思いますので。キャプチャーの中で入れればいいと思いますので、エビデンスにプラスしてここはエンパシーなんですと、それを踏まえた上で、あのウェルビーイングを高めていく、みたいなことを書いていいかなとかと思いました。もう一個ちょっと議題がありますので、こちらについてはよろしいですか？どうぞ。
委員	先ほどの将来のコピー、あそこについてはちょっと先ほどご意見いただいたので、ある程度ここはもう次回の会にしっかり固めさせていただきたいという風には考えています。ある程度全体的な基本構想として、皆さんから特段ある程度ご意見が今委員長からもいただきましたけれど、そういった多少の修正はあるとしても、基本的な構想として、ある程度今回お示しさせていただいたものについては、微調整はあってもよろしいかなと思いますけど、基本的な方向はある程度、皆さんのご意見として、いいのではないかとということのご理解をいただければありがたいかなと思います。ある程度これをもとに次回の計画を作っていくと、今日も若干今後の計画の方向性についてはお示しさせていただきですけど、そこがそれなりに固まっていなくて、次になかなか行けないものもありますので、ある程度多少の修正は言葉の表現とかご意見いただいたところとかですね。将来像はしっかりして固めさせていただきますので、そういう形で、まず皆さんまとめさせていただければありがたいかなと思います。お願いします。

(2)第七次中井町総合計画前期基本計画骨子案について

委員	分野によって重なる部分もあるかなと思います。そのあたりは整理がされるのでしょうか。
事務局	今回の方向性につきましては、非常に分野がかぶりやすい部分もあるのですが、とは言いながらも、行政計画として分野をしっかりすみわけをさせていただいて実現させてもらえればと思います。

委員	わかりました。あとは目標についてはなかなかこういっぱい作ると感じます。ある程度絞ってということになりますかね。
事務局	はい、町の方では今のお話ですけども、行政評価の中で、今は事務事業評価というのを行っています。今後は施策評価というものを行っていきたいと考えていまして、各施策に先ほど言った町民の満足度であったりとか、当然何でも目標値をつければよいというわけではないので、あまり目標値をつけすぎてそれに追われるだけになってしまいます。それはよく精査をさせていただいて、設定をしたいと考えております。
会長	どうでしょうか？いいですか？こういった方向で進めていきますのでお願いいたします。 本日の報告事項及び協議事項は全て終了いたしました。続いて5. その他に移りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料3の6ページ、7ページをご覧くださいければと思います。本日6ページ目は、今後の予定ということでまとめさせていただいてございます。本日赤い三角ついております、第三回の審議会の方を開催させていただきました。一応ですね、今年度の総合計画審議会につきましては、第三回が最後という形になります。一応次回につきましては今のところ来年度、今年の7月ぐらいを予定させていただいてございます。ここでは人口ビジョンと基本計画の分野別体系等をもう少し具体的なものをお示しできればと考えてございます。その後12月に向けまして第五回、第六回ということで、7、9、12月ぐらいで総計審の方を開催させていただければと考えてございますので、ぜひご協力の方よろしくお願いしたいと思います。7ページにつきましては、今年度やってきたものをもう少し細かくこんなことを行ってきましたというものをまとめさせていただきましたので、こちらはお持ち帰りになってご覧いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。スケジュールについては以上になります。
委員	前回もちょっと聞きそびれちゃったんですけど、パブリックコメントを最終的に行うと思うんですけど、この段階でパブリックコメントを実施して、基本構想には何か影響があるというか、できるものなのですかね。
事務局	パブリックコメントを実施する前までに当然、最終的に審議会の皆様の方におかけさせていただいて、この最終案でパブリックコメント出していいですか？というご了解をいただきます。で、そのパブリックコメント実施をしまして、何か町民から意見が出た場合については、その対応の方についても一応ご審議はいただく予定になります。案件により、もう簡単な文言修正等だけでしたら、ちょっと開催の形態があれかもしれないですけども、何かしらその変更が生じる場合については、必ず審議会の方で、ご議論いただく形になります。
委員	もちろん、パブリックコメントを実施してご意見いただきます。基本的な構造の形はそこでもうなかなか変えられるかという、現実としては変られません。ですから、こういう皆さんの中でしっかり審議をしていただいて、もちろん町も議会の方にも説明しながら、作り上げていくものですから、もちろん全てじゃなくて、個々の多分この基本計画に出てくるような案件であれば、やはりこう多少のご指摘いただいたもので、皆様確かにそうだよねというものがあれば、そこはもちろん修正していきます。ですから、まるで修正しないものでもないですけど。ただ、考え方としてもうこの十年間っていうことは、なかなかそこはちょっと現実として、方向性としてはまずしっかり説明をしていきたいという風にはもちろん思って

会長	います。はい、よろしくお願いします。
委員	他にどうでしょうか？ 感想にはなるのですが、ウェルビーイングを高めていく上で、福祉分野という非常に重要だろうというふうに考えております。あの9000人弱の人口の中で一人一人の価値観が違ったりで、ニーズが違ったりという中で、時代がこう今大きく変化する中、IT化であるとか感染症対策であるとか。本計画では全体を捉えて総合的にウェルビーイングを高めていくというふうな考え方をすることが非常に重要なのですが、各個別計画、町の方ではいろんな個別計画があるのですが、特に教育分野では地域福祉計画だとかはあるのですが、そことの連携とが非常に重要で、特に今、地域福祉計画の策定の途中なのですが、高齢化が進む中で、いかに地域のつながりを具体的な施策としてこう出すかとか。あと買い物難民対策であるとか。あと交通弱者対策とか、その辺をしっかりと個別計画の中でも取り組むことによってウェルビーイングを高めていくことになるという風に考えています。ついては、我々の福祉分野の取組が非常に重要だという風に考えていますので、一人一人の意見を十分に聞いた上で施策に反映したり、いろんな計画との連携を深めていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。